

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 つだ福祉サービス	代表者	津田 泰造	法人・ 事業所 の特徴	山と川に囲まれ自然が多く、静かな場所にある施設です。地域の方々との関係もよく年間を通しての交流もできています。利用者や家族に対しては、送迎時間、急な利用、泊まり、緊急な病院受診等ニーズに合った柔軟なサービスを心掛けています。
事業所名	みちの音	管理者	森 睦洋		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	朝、ミーティングをする時間ができなかったが、時間をずらすことで出勤している職員ができるようにする。申し送りノートは継続していく。	朝 10 時からではあるが、ミーティングを行っている。職員に直接申し送りを行うことで情報の共有が図れるようになっている。申し送りノートは継続している。	テーマごとの計画を見る限り、自己評価に全員で取り組んでいたと思われるが、計画を上げすぎている、達成可能なのか。難しいのではないかな。	夕方のミーティングができていないことが多かったため 17 時に決め、その日の利用者情報を共有し合う。申し送りノートと併用していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	これまで通り、どのような状況であっても玄関に鍵をしない。また、事業所周りの環境美化を行っていく。	日中は玄関に鍵をしていない。利用者が来た時は付いて対応している。事業所玄関に季節の花を飾っている。周辺の草むしり等の美化は行っているが、十分でない。	いつも布団などがきれいに干してある。玄関には、いつも花があり良いですね。玄関は、いつ来ても鍵はかかっている。利用者がいつも出入りを繰り返している。	事業所の周辺の美化に力を入れていく（草取り、葉っぱ拾い）送迎車もきれいに並べ、外観が汚れた状態で使用しないように手入れをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	これからも、地域の年間スケジュールの中で、出来るだけ利用者が参加していけるように段取りしていく。職員も地域の方に顔を覚えてもらうために極力参加ができるようにしていく。	小学校の運動会に参加できた。児童が慰問に 2 回来てくれた。敬老会、クリスマス会にいきいきサロンや近所の方がボランティアで参加してくれた。地区の敬老会や奉仕作業等参加している。	運動会は毎回参加してくれている。事業所に来た時は、職員全員が挨拶をしてくれる。事業所として何が出来るのか、どのようなことを地域に求めているのか。	これからも、地域のイベントには参加し、またみちの音行事に参加してもらえるよう努めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域ケア会議の中でもそのような話しは出ている。地域包括センターや東海地区の居宅支援事業所、地域の方々との連携していきながら努力していきたい。	東海包括からの紹介で、小規模サービスを利用してもらえるよう定期的に自宅に訪問して人間関係を作っている。	玄関に写真が貼ってあり、外出した様子や事業所内でのイベントの様子が良くわかる。いきいきサロンで 100 歳体操をしている。参加できるといいのですが。水尻町にも独居者は沢山いる。	利用者以外の近所の心配な方に出向き積極的に関わられるよう努めていく。 100 歳体操を、いきいきサロンの方々の協力のもと参加していく

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議を通して、区長民生委員さんとの関係は良好である。今後は、地域の方にも運営推進会議で何をしているか知ってもらおうよう努める。</p>	<p>地域の方々とはまだまだ近い関係になれていないと思われる。小規模サービスがどんなサービスをしているかが伝えられていない。</p>	<p>事業所が地域の中に溶け込んでいこうという姿勢は見られる。今後も協力しながら地域の活性化に繋げればいのではないかな。</p>	<p>これからは、事業所の取り組みに対しての意見を出してもらい参考にできるようにしていきたい。事例検討会なども行い意見などを聞いて参考にしていきたい。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>今後も年1回以上は合同の避難訓練を継続していく。近所の方には訓練をする報告はしているが参加までのお願いは出来ていないので、働きかけていく。</p>	<p>東海の里さんとの地震・津波での合同避難訓練は今年も行った。火災の避難訓練は2回行ってきたが、近所の方の参加まではできていない。*避難訓練を行うことは伝えているが参加依頼はできなかった。</p>	<p>災害が起こった時は、利用者の命も大切ですが、自分の命も大切にすることも考えていきましょう。災害で一番早く頼れるのは近所の方々だと思います。近所と一緒に訓練を行ったほうが良いと思う。</p>	<p>今後も、地区の避難訓練や近隣事業所の防災訓練に参加していく。まずは、近所の方や区長、民生員さんに事前に避難訓練の日時を知らせて参加を促していく。いざの時に加勢をしてもらえようような関係を築いていく。</p>